

## 仏の村の建設

### 村の現状

一つの村をのぞいて見る。

村内の有志が、政友と民政との二つの政党に別れて、論理でもなく、村民の幸福でも、国家を思う至情でもなく、唯長い間に出来た感情の経緯のために、そして多少の名誉心や、小さい立場の擁護のために、争い続けている。唯そこには、醜い感情が動いているだけである。それについて村民が二つになる。時には青年までが、その中に入って、隣同志すら、選挙時分には、会っても話しもしない。

村の中心に眼を移すと、村役場がある、ここが一つの中心地で、村政治の問題だけ取り扱っている。その側に小学校がある。小学校では、児童と青年男女の教育をしておる。ここでは教育問題だけを取り扱っている。その側に駐在所がある。ここが治安の中心である。寺院が二ヶ寺ある。互に族妬しあいつつ宗教の世界だけ、特に老人だけ多く集っている。その他に、産業組合信用組合があつて、村の金融機関となり、役場に附属して村農会がある。更に村の中堅を網羅した在郷軍人分会がある。

### 村の現状調査

この村は、大字が三つになっているが、部落感情が盛んで、甲字と乙字とは常に相反しているし、甲と丙ともことごとくに一致しない。村会議員の選挙の時、村長選挙の時には必ず問題がおこつて、悪い経緯を深めてゆく。誰かが出て村を改革し、村を統一しようとしても、悉く手を焼いて逃げてしまう。村のそれぞれの中心は、他とはあまりに関係交渉なく、自分の世界、その縄張りだけを守っている。

こうした現状では、この村に限つて進歩発展のあろうはずもないし、村民のための平和境でもあり得ないで、小さい財閥や、権力者たちの勝手に蹂躪されて、何時までも暗い村である。誰でも村民の大部分は、もつと統制と秩序のある明るい村、真に生き甲斐のある村にしたいと願っているに違いない。

そこで我等は、この村についてもつと根本的に調査して見ようではないか。

- 一。この村の全戸五百戸の六割までが借金を持っている。
- 一。村民の大部分は農業で、一割の商家がある。その他、大工、左官等、及び山に入つて働いたり日傭稼ぎ等もある。
- 一。都会から五里、交通便は自動車あるのみ。
- 一。副業は、養蚕が主、山林から薪炭等少量、一切計画的な指導がしてない。
- 一。村民は一般に勤勉であるが、利己的で、団結心、共同心、相互扶助の精神がない。
- 一。部落感情が強くて、村のことがまとまらない。
- 一。村内各団体が一つの連絡も、統制も持っていない。
- 一。村民全体の教育訓練がしてない。
- 一。村の指導方針も精神も樹ててない。
- 一。全て保守的で、その日過ぎで澁刺たる向上心がない。

以上十ヶ条ほど挙げたが、この村をして、面目一新、向上村、模範村とすることは出来ないものであろうか。

#### 問題の中心

何故この村が是の如くなつたか。それはかなり困難な問題のようである。しかしこれを簡単にして考えることは出来ないか。

私は次の如くに考える。

- 一。村の中心幹部の精神的不統一。
- 一。村の指導精神及び計画の皆無。
- 一。村の産業計画、及び統一の欠如。

以上の三項にして考えることが出来る。これを更に簡単にすると、

- 一、統一的精神教育の皆無……………精神
- 二、産業経済方面施設の不備……………物質

以上の如く考えることが出来る。

もちろん精神問題と物質問題は同一の問題ではない。しかし決して二つの問題ではない。一つのもの二面である。精神問題からおきて来るし、精神が物質を支配する。そこで我等はこの村を如何にすべきかについて考えてゆく。

#### 村の統一

何をするにも、その団体の統一を計ることが第一であるように、一村をして真の反映を将来せしむるにも先ず最大の急務は、村の統一を成就することである。

そこで、そこに着眼した村は、次の三つの実行にかかる。

- 二村の各機関の有機的連絡及び、統一提携
- 二、村中心人物の精神的結束
- 三、全村民の精神的教育

先ず第一の村内各機関の關係であるが、村役場、小学校、村会、寺院、駐在所、信用組合、青年団、婦人会、女子青年団、在郷軍人会、消防隊、等々の団体がそれぞれに群雄割拠の状態では仕事は出来ない。そうした団体の幹部が全て、一大統一のもとに、有機的連絡提携を保つて、互にその長短を補い相助けて、各機関を通して、村是の徹底を図ることは急務中の急務である。これすら出来ていないで小学校の仕事は青年団が破壊し、青年団の仕事は軍人会が乱し、寺院は唯、漫然と無秩序な説教を続ける、村会は村民の意向を代表せず、学校は学校だけの抽象的教育を行うのでは、とても、いづれも成績を上げることは出来ない。

第二は、村内中堅幹部の精神的結束である。

現在、各町村へ入って見て、これが完全に行われている所は極めて僅少であると云つていいと思う。

村内に小さい財閥や権力の中心があつて、それを取り囲んで二つも三つもの勢力がある。そしてそれが事々に反対し合う。そうした争いには、時に民政派政友派等の名

はつけられていても、実際はどうでもいい感情の争いが大部分である。その感情の衝突は、二年三年、時には何十年と続けられて争っている。

村民は縁故や、利益や、交際関係で、それらの何れかについてゆく。そうして一方の派のいうことは必ず他派が反対する。それが村会に反映する。そのために、当然道路のついていなければならぬ村であつて、幾十年間これがために道路が出来ていなかった村がある。

村長になりたい人物が、二人も三人もある。一人がなると他がその邪魔をする。一人も満足に仕事の出来た人がない。某県には、村長が三ヶ月で変る。その度に村役場は総辞職するという村があつた。

程度の差こそあれ、あまりすぐれた大人物が一人もなかつたり、あり過ぎたりする村では必ずこれがつきものである。そこで一村更生の第一歩は、必ず、この村の中心人物の感情問題、あるいは長い経緯を全て解消して、その精神的結束へと自覚してゆくことが、非常時の村として第一になされねばならぬことである。

何が故にかかる中心人物の争いを生むか、問題は簡単である。大乘精神の欠無である。小我の迷妄を持った人が村の中心に立つからである。そこで第三の問題が起つて来る。

#### 全村民の精神的教育

某県の某村の小学校に講演に行つたことがある。どんな容易なことに話を下しても、集つた人たちは何を聞いているのかわからない様子である。全く困つてしまつて3後で問うと、全村は名ばかりの禅宗で、一般に大衆教育の皆無の所とわかつた、しかも村の中心に長屋式の家が列んでいる。これが村の中心人物たちの妾邸である。この村には全く公德觀念なく、村政も乱れ、手のつけられない村とわかつた。又某県の田舎などにゆくと、小学校の先生などは命がけである。村民はちよつと先生が子供をなぐつたというので隊をなしておしかける。子供の前にすら先生は全く武装した心で立つ。

ここまで行かなくても、村民全体に、計画的に精神教育を施してゆくことは、村を統一し、村を車展せしめるに欠くべからざることである。

特に仏教の無我の生活態度を知らしめ、全村民をして無我の真精神を体得せしめて、徒らに議論にのみ長じて、手足の動かないような人間、事を破ることを以つて得々とするような人間、権力を弄んで、自分の邪悪や勝手を通そうとするような人間をして、真に無我の大乘精神に帰らしめ、全村民をして、如何にすれば人間の社会が、豊に建設されるかを知らしめて、己の勝手や、権勢や、虎狼の如き暴力等々が如何に、真の歡びに遠ざかつていのかを知らしめる。

わけて、大人教育、成人教育は急務中の急務である。青少年は色々な機会に教育を受けているが、大人になると放任されている。大人中でも、女はあるいは婦人会等話を聞く機会もあるが、男子に至つては村の集会等に出る機会があつても教育を受けていない。何よりもこの壮年以上の男子に教育を施すこと、特に宗教々育を施すことは急務中の急務である。

以上の如き、方法の以外、未だ色々な方法があると思うが、何よりも先に一村の統一者完成することは、一切を成功せしめる第一歩である。